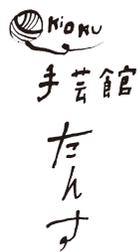


「たんす」の入り口に、やわらかな雰囲気が加わりました。制作は伊藤みつ子さん。

たんすレター



第 2 号



「編み物をほどく／ほぐす」

kioku手芸館「たんす」の開館日には、「編み物をほどく／ほぐす」ワークショップを行っています。

タンスにしまわれていた編み物をいただき、まちの方々といっしょにほどいて、毛糸玉に戻し、美術家の呉夏枝（お・はち）さんの作品の素材として再生しています。その過程をご紹介しますと、①まずは毛糸をほどく作業。前身ごろ、後身ごろや、えり、そでなどのパーツに分解してから、ほどいていきます。②ほどいた毛糸をかせくり器に巻き、かせを作ります。③かせを蒸して、毛糸を伸ばします。この作業で、ちぢれていた毛糸がしなやかにまっすぐに戻ります。④蒸した毛糸は干した後、「まきまき」という道具を使って毛糸玉にしていきます。蒸したことによって、毛糸の色もさえて、とてもすてきな毛糸玉になります。

「むかし、私もようやったわ。やかんの口のところで毛糸を蒸してね。」と言われることがあります。「うでに毛糸を巻付けて、お母さんの手伝いをしたわ。」という方もいらっしゃいました。「10代の頃、お友達といっしょに編み物にはまってね。」「私は昔から編み物が好きでね。」

年を取ってからは思うように編めなくなったから、とおっしゃりながら、毛糸を触りなれた手つきで、ほどく作業を手伝ってくださる方がいます。「たんす」では、そんな思い出などをうかがいな



がら、一緒に編み物をほどいています。

今後は、「編む」ワークショップも行っていきたいと思っています。詳しいことは、次号以降でお知らせしていきます。

写真：草本利枝（上から3点）、呉夏枝（上から4点目）

「たんす」のひき出し



第2回：崎谷悦子さん（「たんす」コンシェルジュ）

【たんす コンシェルジュ】 ワークショップや見学のお手伝いをする「たんす」の総合ご案内係です。

昨年還暦を迎えた私には、ひき出しが二つあります。

思い出がいっぱい詰まったひき出しと、今から新たなことに挑戦し、いっばいにしようと思っているひき出しの二つです。

一つ目には、毛糸との出会いも入っています。26年ほど前になりますが、当時、TVゲームが流行っていて、「ゲームの主人公のマリオが入ったセーターが着たい」と次男にせがまれました。まちの小さな編み物教室に、長い編み機を持ちながら、通いました。子どもたちのベストや卒業式のカーディガン等も編みました。今では、マリオのセーターを次男の子ども（私の孫）が着てくれるなんて、思ってもみなかったことで、本当にありがたいと喜んでいます。

二つ目の空っぽのひき出しに、昨年ブレーカープロジェクトとの出会いが入りました。”現代美術”は平凡な専業主婦だった私には、まったく縁のなかった言葉。何のこと？と戸惑いながらも、お仲間に入れていただきました。未知の世界や若いお仲間との出会いに感謝しております。

これをお読みになられた皆さん。ぜひ一度 kioku 手芸館「たんす」に足をお運びください。新しい世界が開かれるかも～デス。楽しいですよ。

おしらせ

「たんす」では、使わなくなった編み物や毛糸を探しています。譲っていただける方は、ぜひお持ちください。いただいた編み物は、ほどいて再生し、呉夏枝さんの作品の素材として使用させていただきます。（100着を集めてほどくことを目標にしています。）

kioku 手芸館

たんす